

知的財産戦略に資する特許情報分析事例集

—特許情報分析事例集—

総務部企画調査課 特許戦略企画班 山中 なお

1. はじめに —『知的財産戦略に資する特許情報分析事例集』の公表にあたって—

企業の技術経営力を高めるには、「事業戦略」「研究開発戦略」「知的財産戦略」を三位一体として推進していくことが重要です。

特許庁では、2007年4月、経営において知的財産を積極的に活用している国内外企業約150社からのヒアリングをもとに、各企業が自社に最適な知的財産戦略を構築し実行する上で考慮すべき観点や留意点を紹介した「戦略的な知的財産管理にむけて—技術経営力を高めるために— [知的財産戦略事例集]」を公表しました。

この知的財産戦略事例集では、企業が進める知的財産戦略のさまざまな局面で、特許情報をうまく分析し活用することが重要であると指摘されています。

特許情報には、公開特許公報、特許公報から得られる、出願番号、公開番号、出願人名、発明者氏名、代理人氏名、出願時期（開発時期）、出願の技術分野、発明の要旨、課題と解決手段等の出願関連情報、IPDL等から得られる、審査段階での拒絶理由通知内容や引用文献等の審査関連情報、審判請求の有無等の審判関連情報、知的財産高等裁判所のホームページから得られる、侵害訴訟等控訴事件や審決取消訴訟等の判決に関連する情報等、様々なものがあります。これら、特許情報は、どのような分析に利用できるのでしょうか。

例えば、自社の有する特許について、出願時期、発明者氏名、発明の名称あるいは出願の技術分野毎に整理するこ

とは、技術開発の変遷や出願技術分野の経年変化、出願動向の分析、発明者それぞれの得意分野等の把握につながり、自社技術の全体的な把握や、特許出願の要否の判断に活用することができます。審査関連情報である引用文献・被引用文献等の情報からは、どの文献が注目されているか把握することができます。競合他社の特許情報も併せて分析することで、自社と競合他社との出願領域の重複の有無、自社や競合他社の技術的な強み弱みの分析、特定分野における技術動向や技術ニッチの分析、研究開発のテーマや方向性の決定、共同研究相手の選定、さらには技術提携やアライアンスといった事業の維持・拡大の検討などにも活用できるといえます。

このように、特許情報を活用し、いろいろな観点の分析を行う際は、必要な情報を正しく抽出し、的確な検討を行うことが不可欠です。しかしながら、年々増え続ける特許情報を手作業で整理し分析することは、容易なことではありません。

そこで、特許庁企画調査課では、企業の知的財産戦略に資する特許情報分析手法としてどのようなものがあるのか、具体的なツール・分析手法・事例を紹介すべく、「特許情報分析事例集」を作成いたしました。本事例集では、特許情報を分析することで何が見えてくるのか、特定の技術分野の技術開発動向や自他社の強み弱みを分析するにはどうしたら良いかなど、特許情報分析についての基本的な考え方から、特許情報分析ツールを開発している各社が誇る最先端の分析手法まで幅広く取りまとめています。

2. 知的財産戦略に資する特許情報分析事例集の概要について

本事例集は、以下の9つの企業の特許情報の分析手法に関し、具体的に紹介しています。

目次	
競争に勝つ！エビデンスベースの意思決定で事業を強化	インテクストラ株式会社
「パテントマップ®EXZ」の概要と事例—自動車エンジンメーカーの開発の出先を探る—	インパテック株式会社
特許情報の可視化による技術マーケティング～テキストマイニングとネットワーク分析の活用～	NRIサイバーパテント株式会社
特許文献を俯瞰して脅威に気付きチャンスモノにする	株式会社創知
CsvAidを使用した特許解析の方法論	中央光学出版株式会社
事業戦略に役立つ、知財総合ソリューションTHOMSONINNOVATION®による特許情報分析	トムソン・ロイター
特許マップを利用したトレンドの類推について	日本パテントデータサービス株式会社
特許評価指標パテントスコア、分析ツールBiz Cruncherを用いた特許情報分析	株式会社 パテントリザルト
特許分析システム「ATMS/Analyzer」を活用した特許情報分析	富士通株式会社

2-1. 競争に勝つ！エビデンスベースの意思決定で事業を強化……インテクストラ株式会社

企業の意思決定に資する効果的な特許情報を得るための分析アプローチを「マクロ分析」「セグメント分析」「エレメント分析」「コア分析」の4ステップに大別。マクロ分析では時流に乗った技術開発、トレンドのとらえ方、セグメント分析とエレメント分析では、勝機の見極め、チャンスとリスクのマトリクスチャート形成、コア分析では、事業を守る重要な砦の強化、特許の質の評価、オープンイノベーション、知財の収益化のためライセンスングに着目した分析手法について紹介しています。

2-2. 「パテントマップ®EXZ」の概要と事例

—自動車エンジンメーカーの開発の出先を探る
……インパテック株式会社

特許マップについて論じられ、パテントマップ作成支援ソフト「パテントマップ®EXZ」を紹介。事例では、自動車メーカーの「非自動車関連技術」が分析され、さらにエン

ジン関連メーカーの「主要分野」と「非主要分野」の分析を例に開発の流れが示されています。具体的には、FIサブグループでの伸びと構成率のマップでは主力メーカーの動向を探り、コアファインドマップではコア技術を探り、各社の技術シェアマップではその差異などが示され、自動車メーカーの「出先技術」を示唆した分析事例について紹介しています。

2-3. 特許情報の可視化による技術マーケティング ～テキストマイニングとネットワーク分析の活用～ ……NRIサイバーパテント株式会社

テキストマイニングツール「TRUE TELLERパテントポートフォリオ®」（日本語版・英語版）と、ネットワーク分析サービス「+PLANET（プラス・プラネット）」について、その特長と活用事例を紹介。サーモグラフを用いた技術動向・業界構造の俯瞰方法、課題、要素技術等を軸とした詳細分析による自社の相対的な強み・弱みの把握、事業戦略、研究開発戦略とのギャップを分析するための自社特許の棚卸、および、発明者のネットワーク分析による顧客企業におけるキーパーソンの把握等について紹介しています。

2-4. 特許文献を俯瞰して脅威に気付きチャンスモノにする……株式会社創知

「研究開発の強さは俯瞰してわかる」をテーマに、俯瞰解析とは何か、俯瞰解析の必要な企業・組織とは何か、俯瞰解析の手順を解説。俯瞰解析の事例として、M & A事例（経営支援側が技術救済されている事例、マーケットシナジーを目的とした資本提携の事例）、アライアンス探索と期待されるシナジー効果の分類、研究開発テーマの再設定、未利用技術の売却、ライセンス戦略について等の分析手法について紹介しています。

2-5. CsvAidを使用した特許解析の方法論 ……中央光学出版株式会社

CsvAidという特許情報解析ソフトについて、環境汚染の分野を例に、仮説の検証乃至探索に有用と思われる事例を、データマイニング編とテキストマイニング編に分けて紹介。データマイニングの事例として、技術分野・発明者・共同出願人・課題語から出願人動向を考察し、テキストマイニングの事例として、特許網形成状況・他社特許との類似状況（先願、後願）・共同出願人・技術的課題から出願人動向を考察する分析手法について紹介しています。

2-6. 事業戦略に役立つ、知財総合ソリューション THOMSON INNOVATION®による特許情報分析 ……トムソン・ロイター

2つの視点、「新規事業展開を狙った場合の特許分析」と、「特許侵害を防ぐための分析、特許侵害を受けた場合の分析」について、テーマスケープ、THOMSON INNOVATION®, Derwent World Patents Index® (DWPI)それぞれのツールによる分析を紹介。カーボンナノチューブ技術を例にとり、新規事業展開を狙った場合の特許分析においては、新たな用途を考えて事業展開したい、応用技術全体からヒントを得たい、ライフサイエンスにおける事業展開をしたい、競合分析をしたい等の要望に合わせた分析手法について紹介しています。

2-7. 特許マップを利用したトレンドの類推について ……日本パテントデータサービス株式会社

「JP-Map」ならびに「ぱっとマイニングJP」を利用し、水の浄化設備で利用されている「RO膜(逆浸透膜)」を用い、出願件数マップ(全体傾向)、出願人ランキング、キーワードランキング、IPC(国際分類)ランキング、上位企業解析(出願人(上位)×IPC(国際特許分類)(上位)、課題(要約)×解決手段(要約)一覧まとめ、被引用ランキング、海外への展開について(国際特許出願情報を中心に確認)の5つのステップに作業を分けて、トレンドを把握する方法について紹介しています。

2-8. 特許評価指標パテントスコア、分析ツールBiz Cruncherを用いた特許情報分析 ……株式会社パテントリザルト

出願された全ての特許について1件単位での評価値自動算出を実現した「パテントスコア」や、「パテントスコア」をベースに高度なテキストマイニングを駆使した特許分析ツール「Biz Cruncher: ビズクランチャー」を紹介。パテントスコアの算出方法と活用例、パテントスコアを用いた特許棚卸、自社および競合他社特許分析に基づいた特許ポートフォリオの最適化手法、出願特許の周辺出願状況を可視化する類似特許マップ等を用いた分析手法について紹介しています。

2-9. 特許分析システム「ATMS/Analyzer」を活用した特許情報分析 ……富士通株式会社

大量の特許情報を短時間で可視化するATMS/Analyzerの仕組と特長を紹介。分析事例として、立体TVに関する技術(Fターム=5C061: 立体TV及びTVの試験、検査、測定等)の検索を行って抽出された約6500件(2010年1月時点)を対象とした、統計的な集計による全体傾向の分析、テキストマイニングを使った内容の分析、引用情報を利用した分析、独自の情報を追加した分析等について紹介しています。

3. おわりに

以上、簡単ではありますが、「特許情報分析事例集」の概要を紹介いたしました。

本事例集は特許庁のWEBサイト上に掲載していますので、是非ご一読ください¹⁾。

知的財産戦略のさらなる高度化を目指す企業にとって、本事例集が少しでもお役に立てば幸いです。

最後になりましたが、本事例集を作成するに当たりご協力いただきました、各社ならびにご担当いただきました方々に厚く感謝を申し上げるとともに、今後益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。



profile

山中 なお (やまなか なお)

平成16年4月 特許庁入庁(特許審査第二部動力機械)
平成20年4月 審査官昇任
平成22年4月 企画調査課特許戦略企画係長

1) http://www.jpo.go.jp/sesaku/tokkyosenryaku_01.htm

個別の分析手法についてもっと詳しい話が聞きたい、特定の技術分野について、あるいは、自社の知財力について分析して欲しいといった要望がある場合に、直接担当者とコンタクトが取れるよう、本事例集内に、各分析手法の紹介者氏名と連絡先を掲載している。